

9

介護に備えて知っておく／知らせておくべきことは？

Q

親が元気なうちに、将来の介護について家族で話し合う機会があれば良かったなと思います。また親の資産を把握していなかったのが、介護にどれだけかけられるか不安でした。

[50代]



A

親御さんがお元気なうちに、生活習慣や介護への希望などを話し合っておくと良いですね。事前に情報があれば、いざ介護が始まったときに、適切なケアを提供しやすくなります。



※以下では親御さんの情報を把握する場合の例を挙げますが、ご自身や他のご家族の介護に備えて知っておくべき情報、知らせておくべき情報としても参考にしてください。

生活習慣・かかりつけ医

一日をどのように暮らしているのか、好きなことや趣味は何か等を聞いておくと、介護を受ける方の生活に合ったケアプラン(→13)を立てるときの良い材料となります。

かかりつけ医も要介護認定を申請する際に必要な情報となります(→12)。

ご近所との関係や、交友関係

親御さんのご近所との関係や、交友関係を事前に把握しておくことは、介護が始まったときに、様子を見に来てくれる人が近くにいるかどうかや、介護の悩みを家族以外に話せる人がいるのか等を予想するのに役立ちます。

どんな介護を受けたいか

要介護認定後イメージしながら、どこで介護を受けたいか、どのようなサービスをどのくらい受けてもいいと思うか、家族にしてほしいことは何か等、あらかじめ親御さんの希望を聞いておきましょう。介護が始まったときに、寄り添ったケアを提供しやすくなります。

経済状況

介護サービスを利用する場合も費用が発生します(→6)。親御さんの預貯金や、毎月の収入額、加入している民間保険などを確認しておけると、毎月の介護サービスにどのくらいお金をかけられるか判断するための材料になります。